



③各分野・クラスター間での知見や問題意識の共有を図るためのワークショップ等を通じて身体性と社会的分断の克服に関する学際的な問題意識や方法論のすり合わせを試みた。より具体的には、①でも言及した第一回研究集会（キックオフ・ミーティング）や、令和6年1月に実施した国際シンポジウム「アカデミック・リサーチと芸術の未来」及び同年2月に実施した本課題の第一回公開シンポジウムなどを通じて、本課題にかかわる問題意識や方法論等に関する知見の共有を図った。この他に令和5年の11月と12月には、バリ芸能の身体的パフォーマンス、ならびに映像人類学的手法をテーマとする市民参加型のアウトリーチイベントを計2件ほど実施し、本課題の研究成果の公開・還元も実施した。

#### 【研究成果の発表状況等】

- 論文（計12件）のうち査読付論文 計4件、うち国際共著論文 計1件、うちオープンアクセス 計12件
- ① 床呂郁哉、趣旨説明：トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築」床呂郁哉編（2023）『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築（第六回）』pp. 1-5. 東京外国語大学AA研、2023年9月15日、pp. 1-5.（査読無）
  - ② 床呂郁哉、趣旨説明：トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築」床呂郁哉編（2024）『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築（第七回）』pp. 1-4. 東京外国語大学AA研、2024年2月9日、pp. 1-4.（査読無）
  - ③ 床呂郁哉、「座評軸 東マレーシア・サバ州からフィリピンとの関係を考える①」『まにら新聞』、2023年9月27日号（査読無）
  - ④ 床呂郁哉、「座評軸 東マレーシア・サバ州からフィリピンとの関係を考える②」『まにら新聞』、2023年10月4日号（査読無）
  - ⑤ Tsuji, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2024.2). Emotional response in infants' pupil contagion. *Journal of Experimental Child Psychology*, 238, 105801.（査読有）
  - ⑥ Nakashima, Y., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2024.1). Metacontrast masking is ineffective in the first 6 months of life. *Cognition*, 242, 105666.（査読有）
  - ⑦ Imatani, K., Inoue, T., Oto, Y., Kitajima, T., Otani, R., Nakashima, S., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., Sakuta, R., & Matsubara, T. (2023.12). Generalized Anxiety Disorder and Depression Associated with Developmental Prosopagnosia: A Case Report. *Journal of Mental Health & Clinical Psychology*7(3), 50-54.（査読有）
  - ⑧ Tsurumi, S., Kanazawa, S., & Yamaguchi, M. K. (2023.12). Infants' visual perception without feature-binding. *Proceedings of the Royal Society B*, 290(2012), 20232134.（査読有）
  - ⑨ 河野哲也「哲学対話の意義：暴力の回避と沈黙」『福音宣教』2024年2月号，オリエンス宗教研究所，pp. 26-32.”（査読無）
  - ⑩ 金澤正治・河野哲也「道徳科授業における対話的方法の道徳的効果について」『立教大学教育学科研究年報』第66号（2024/3），pp. 101-139.”（査読無）

- ⑪ 吉田ゆか子、"Fushiki, Kaori and Ryoko Sakurada eds. 2023 Anthropology through the Experience of the Physical Body, Springer Singapore", (【分担】Yukako Yoshida Playing about with Our Imperfect Bodies: Representations of Physical 'Disability' in Balinese Mask Drama Topeng, pp. 61-75 を担当) 2023年12月出版ISBN 978-981-99-5723-1 総ページ数 163 (査読無)
- ⑫ 吉田ゆか子、「バリ島のランダは魔女で女神」『月刊みんぱく』2024年2月号, pp. 10-11. (査読無)

○著作物 (計5件)

- ① 小手川正二郎、酒井麻依子、野々村伊純訳、ヘレン・ンゴ『人種差別の習慣——人種化された身体現象学』青土社、2023年、352頁。
- ② 床呂郁哉編 (2023) 『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築 (第六回)』 (シンポジウム・プロシーディングス)、東京外国語大学AA研、2023年9月15日、128頁
- ③ 床呂郁哉編 (2024) 『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築 (第七回)』 (シンポジウム・プロシーディングス)、東京外国語大学AA研、2024年2月9日、106頁
- ④ 奥野 克己, 川口 幸大, イリナ・グリゴレ, 近藤 宏, 平野 智佳子, 福井 栄二郎, 藤原 潤子, 古川 不可知, 村津 蘭 (担当:共著, 範囲:ベナンの妖術師) 『世界ぐるぐる怪異紀行: どうして” わからないもの” はこわいの? (14歳の世渡り術)』河出書房新社、2024年3月20日、192頁
- ⑤ 飯田淳子, 島藪洋介, 川田牧人監訳, 津村文彦, 野波侑里, 堀口佐和子, 村津蘭 訳 (担当:共訳) 『(翻訳) 『聖なる自己—カリスマ派の癒しの文化現象学』トーマス・J・チョルダッシュ』水声社、2023年12月22日、457頁

○講演 (計16件) うち招待講演 計2件、うち国際学会 計0件

- ① 乳児におけるImplied Motionがランダムドット運動へのOKN反応に与える影響(2)、梅川璃空・金沢創・山口真美、日本視覚学会2024年冬季大会、2024年1月18日、参加者数500名 (うち研究者350名、一般150名)
- ② 乳児におけるImplied Motionのランダムドット運動への般化の検討 ～OKN反応を指標として～、梅川璃空・金沢創・山口真美、日本基礎心理学会第42回大会、2023年12月3日、参加者数700名 (うち研究者500名、一般200名)
- ③ からだからはじまるころ: 身体性認知と内受容感覚、工藤和俊、日本養生学会第25回大会シンポジウム帝京科学大学、2024年3月2日
- ④ 一人ひとりから障がいを考える、田中みわ子、令和5年度 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター 障がい福祉と芸術文化のかかわりを考える勉強会「一人ひとりの表現からはじめる、2023年12月11日～12月25日: オンラインでの動画公開、参加者数46名
- ⑤ 「描写」フィールドワーカーは何をどのように描くのか? 、村津蘭、Fieldwork Research Lab 部局間交流シンポジウム6「描写」フィールドワーカーは何をどのように描くのか? 2024年3月29日 東京都立大学人間健康科学研究科 / 人文科学研究科
- ⑥ Capturing the Uncanny: Anthropological Research and Creative Collaboration、Ran Muratsu、Workshop “Multimodal Anthropologies across the Pacific” 2024年

1月5日

- ⑦ 合評会：村津蘭 著『ギニア湾の悪魔—キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌』（世界思想社、2023年）、村津蘭、第83回ASCセミナー 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、2023年11月1日
  - ⑧ Technologies of Affect in Possession on the Media: Cases from Pentecostal-Charismatic Christianity in West Africa、Ran Muratsu、19th IUAES-WAU World Anthropology Congress 2023 2024年10月16日 IUAES-WAU
  - ⑨ メディアにおける憑依と規範—西アフリカのペンテコステ・カリスマ系教会を事例として、村津蘭、科学研究費補助金基盤A「妖術」はどこから犯罪か？ミーティング 2023年9月30日 科学研究費補助金基盤研究A「妖術」はどこから犯罪か？—旧英領アフリカ諸国の司法判断の合理性（22H00035）
  - ⑩ トークイベント「アフリカの宗教にせまる—イスラーム、キリスト教、在来信仰」、村津蘭、池邊智基、江端希之、人類学カフェ、2023年7月19日
  - ⑪ 「人類学×アートから考える」『拡張するイメージ 人類学とアートの境界なき探究』（亜紀書房）刊行記念、藤田瑞穂、川瀬慈、西尾美也、村津蘭、下北沢B&Bのトークイベント 下北沢B&B、2023年7月13日
  - ⑫ 「人類学×アートから考える」『拡張するイメージ 人類学とアートの境界なき探究』（亜紀書房）刊行記念、川瀬慈、ふくだぺろ、藤田瑞穂、村津蘭、柳沢英輔、トークイベント「人類学×アートから考える」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2023年6月27日
  - ⑬ The Transformation of Possession through the Media: Cases from Pentecostal-Charismatic Christianity in West Africa、Muratsu Ran、Workshop “Affective Technologies of Religious and Spiritual Healing”
  - ⑭ アフリカのペンテコステ・カリスマ系教会における妖術と憑依—ベナンの事例から、村津蘭、AA研フォーラム 2023年6月14日 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
  - ⑮ マルチモーダル・エスノグラフィーとWebサイトの可能性、村津蘭、日本文化人類学会第57回研究大会 2023年6月3日
  - ⑯ SNSを通じた呪術・治療の知識流通の変容—ベナンの薬草師・呪術師の実践を事例として、村津蘭、日本アフリカ学会 第60回研究大会、2023年5月14日
- 本事業で主催したシンポジウム等（計9件）うち国際研究集会 計2件
- ① Workshop on Cross-Cultural and Individual Perspectives in Face and Body Perception. @Ritsumeikan University、2024年2月19日、発表5件、最大8名程度参加。
  - ② Ikuya TOKORO(2023) Introduction: International Workshop on Northeast-Southeast Asian Migration Flows: Towards Inter- and Transdisciplinary Perspectives (Academic Exchange on Asian Studies between UP-Asian Center and TUFS, ILCAA) @UP-Asian Center, the Philippines、2023年9月4日
  - ③ 床呂郁哉、「趣旨説明：身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」日本学術振興会・学術知共創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」2023

年度スタートアップ研究集会、@東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2023年11月12日

- ④ 床呂郁哉、「趣旨説明：身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」日本学術振興会・学術知共創プログラム、「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」第一回公開シンポジウム講演、@東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2024年2月11日、参加者数43名（うち研究者38名、一般4名）
- ⑤ 高橋康介、心理学の視点から顔身体概念を再考する、「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」第一回公開シンポジウム講演、@東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2024年2月11日、参加者数43名（うち研究者38名、一般4名）
- ⑥ 吉田ゆか子企画・出演、芸能公演&ミニレクチャー「バリ島の音楽と歌芝居にふれよう」、@東京外国語大学プロメテウス・ホール、2023年12月3日
- ⑦ 吉田ゆか子企画・出演、「人類学カフェーバリ島のケチャを体験しよう」、@東京外国語大学附属図書館4Fラボ、2023年12月1日
- ⑧ 吉田ゆか子企画・出演、「人類学カフェーバリ島のケチャと声ガムランを体験しよう」、@東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所306号室、2023年11月25日
- ⑨ 吉田ゆか子、「2023地球たんけんたいトリップ4『バリ島の仮面で変身しよう!』」、@京都大学東南アジア地域研究研究所3F中会議室、2024年2月25日

○ホームページ

<https://osde.jp/index.html>